愛鷹連峰ハイキング 山行報告書

【山 域】富士山周辺 愛鷹連峰(富士山の南)

【行動日とルート】 6/1(土) 越前岳~黒岳

6/2(日) 位牌岳~愛鷹山

【参加者】CL 柘植、渡辺純、安岡(記録)

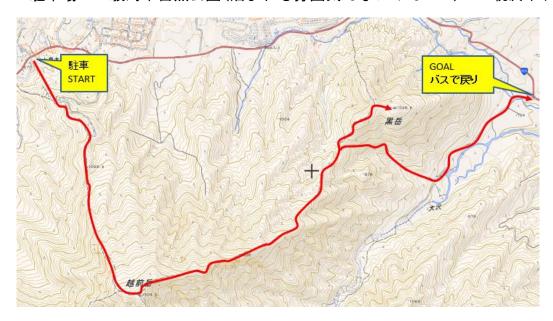


【行程】6/1(土)越前岳~黒岳

京成津田沼 6:15 ⇒ 御殿場 IC ⇒ 十里木登山口駐車場 10:10 → 展望台 10:40

- → 平坦地 11:10 → 勢子辻分岐 11:35 → 11:40 越前岳 12:20 → 富士見台 12:45
- → 鋸岳展望台 13:15 → 富士見峠 13:35 → 13:55 黒岳 14:00 → 富士見峠 14:15
- → 14:45 山神社 → 15:05 愛鷹登山口バス停 15:29 ⇒ 15:45 十里木バス停 →

15:55 駐車場 ⇒ 駿河平自然公園(泊まれる雰囲気でないのでパス) ⇒ 桃沢キャンプ場



愛鷹山(旧称足高山。足和田山、足柄山と共に富士三脚と言われる)を歩いて来ました。十里木駐車場に到着すると30台くらいの車ですでに満杯。どう見ても駐車場が狭すぎます。





越前岳の十里木登山口

背景にゴルフ場で富士山は雲の中

道路反対側の私有地と思われるスペースにゴメンナサイして駐車。トイレ脇の木段から登り始める。振り返れば雄大な富士山~のはずだけど、すっぽりと雲に隠れてゴルフ場などの裾野の風景しか見えない。登山道脇には白やピンクのウツギが、また小花のツツジやハマナスによく似た希少種サンショウバラの愛らしく美しい花も見られた。湿気の多い環境なのか、滑りやすい足元を避けるように幾筋もの道ができてしまっており、好き勝手に歩かれている。ロープ等で規制しないと増々登山道が荒れてしまうのではと心配になった。前後で幾組ものパーティーとすれ違い、愛鷹山連峰の最高峰である越前岳の人気がうかがえた。

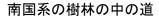




ウツギ

ツツジ







越前岳の山頂





可愛らしいお地蔵さま

昔の五十銭札でここからの写真が採用

山頂でも相変わらず富士山は姿を見せずじまいで、撮影会もそこそこに 40 分もまったりした後、最終バスの時刻を気にしつつ出発。遊園地からと思われる軽快なバンジョーの音や射撃演習のような号砲が度々響き、里が近い感あり。黒岳に向かう尾根は馬酔木やツツジの天然の並木が見事で、途中には鋸岳や位牌岳が見える展望所もある。黒岳山頂でその日初めての富士山が山頂部をほんの一瞬だけのぞかせた。





まさに鋸歯状の鋸岳

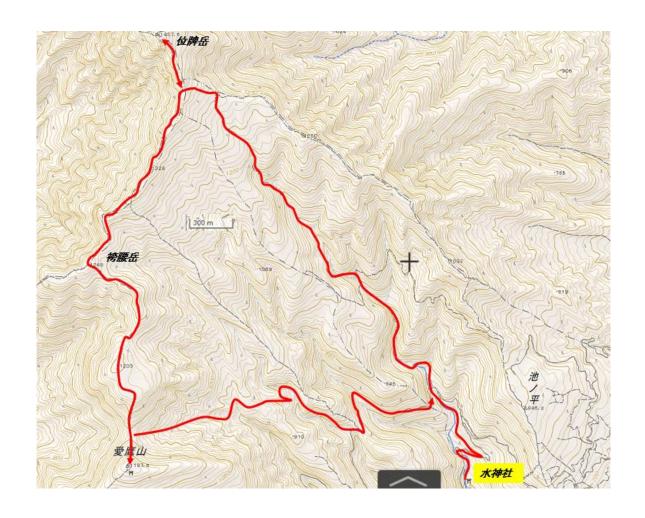
黒岳の山頂

山神社への下りの途中には昭和10年に建てられたという小さな愛鷹山荘がひっそりと立っており、薪やゴザ、座布団などがそのままに。往時は登山の足場として賑わっていたのだろうか。下山して愛鷹登山口から十里木行バスに乗ったところ、サファリパークはじめ十里木別荘地へと案内よろしくぐるぐる巡り、車ならわずか5分のところ25分もかけてやっとPへ戻った。ヘルシーパーク裾野(富士山を望む露天風呂付520円)で汗を流し、近くのスーパーで買い出ししてから長泉町営桃沢キャンプ場へ(前日までに要予約、一張1000円)。いきさつがあり事前連絡をしていなかったけれど交渉の末に利用許可が下りて宿とすることができた~無理なお願いをしないよう予約しておくべきですね。

【行 程】6/2(日)位牌岳~愛鷹山

キャンプ場 5:20 ⇒ 水神社 6:00 → 林道を経て登山口へ → 登山口 6:15 → つるべおとしの滝 7:05 → 服峠 8:45 → 位牌岳 9:15 → 袴腰岳 10:00

- → 馬場平 10:45 → 11:00 愛鷹山 11:10 → 水神社 13:00
- ⇒ 長泉沼津 IC ⇒ (新東名~東名経由) 千葉



桃沢キャンプ場は登山用 P のある水神社まで 10 分と、施設は地味だけれど好立地にある。更に近いところにオートキャンプ場もあったが一区画 1000 円という訳にはいかないだろう。水神社の参道には信者さんから寄進された幟が多数はためいており、また本殿横には天然の滝が流れ落ちていて、行場のような雰囲気を醸し出していた。







早朝でまだ人気のない参道

地図から読み取った登山道は境内には無く、折り返して戻った駐車場の先の林道脇に「熊に注意」の 札と共に小さな案内板が掲げられていた。登山者を歓迎してくれるなら、もっと大きくわかり易く表 示すべきじゃないかしらん。一服峠までは沢沿いを緩やかに登って行く。独特の香りを放つ白い花を 付けた灌木が沢筋を彩っていた。ロール状の葉っぱがあっちにもこっちにも落ちている。気にしてい たら赤茶色のオトシブミらしき昆虫に出会った。カメラを出す間がなくて残念!



千帳岩 (溶岩のナメ床)



名称不明の花 (たくさん咲いていた)



つるべ落としの滝



稜線への最後の緩やかな登り

ほどよく休憩するタイミングでユネスコ認定伊豆半島ジオパークの一部、つるべ落としの滝に到着。 グリーンシャワーとマイナスイオンシャワーの W 効果で寛ぎました。位牌岳から袴腰岳へかけても人 の気配のない静かな尾根を、色とりどりのツツジの美しさに感嘆しながら歩いた。



位牌岳の山頂(なぜこんなネーミング?)



袴腰岳の山頂

馬場平へ着いたところで今日一番の展望を得た。薄曇りながら眼下に富士市や駿河湾を望め、ピクニック広場と呼びたくなるような開放的な雰囲気の場所だった。





馬場平からの下り

愛鷹山の山頂

メインの愛鷹山も富士山に微笑んでもらえないまま記念撮影して即下山。およそ1時間くらい下ったら林道に出てもう一息というところ。そこで要注意!林道がカーブするところに手書きの『水神社→』という札が。林道をはずれる山道が直進に見える方向に続いているのです。リーダーが「こっちね」と行きかけるので胸の中でホイッスルを鳴らしてストップをかけた。事前にネット上の失敗談を見て予習していたはずなのに素直に過ぎる我らがリーダー。踏み込んだら駐車場よりも下方へ誘引されるらしく「素直に林道を歩けば良かった」と記録にありましたよね・・という訳でそのまま林道を辿って難なく水神社Pへ戻りました。迫力ある富士山を仰ぎ見ることはできませんでしたが、林間を絶え間なく飛び交う鳥たちの囀り、瑞々しい新緑と季節の花々を堪能した山行でした。

山行報告:安岡敏子